

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 富野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

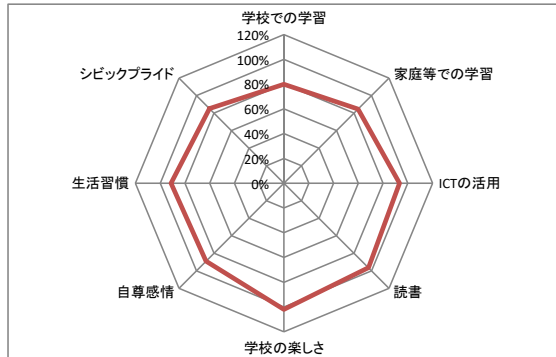
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」についての正答率が、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章を読んで理解したことについて自分の考えをまとめることができるかをみる問題の正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	自分の考えや解き方を説明する「記述式」の問題の正答率が、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、変化の特徴を読み取り、知りたい数を求めることができるかをみる問題	
	努力が必要な問題	比例を用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「学校の楽しさ」「読書」「ICTの活用」については全国の平均値と同程度である。 ・普段から読書をしている児童が増えてきているので、今後も継続させたい。 ・家庭学習の習慣は少しずつ身に付いてきている。しかし、全国の平均値と比べると下回っているため、継続的な取り組みと宿題の内容や量について見直しをする必要がある。 ・「自分にはよいところがある」の質問に対し、全国の平均値を少し下回っている。児童同士が助け合ったり、ほめあったり、協力したりできる特別活動や学級活動を計画的に取り組み、自己肯定感や自己有用感を高める必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・全教科の授業の中で「話し合う活動」を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- ・「とみのっ子タイム」での補充学習等、児童の基礎的な学力の定着を図ることを徹底していく。
- ・「わかった」「できた」を実感できるよう、主体的な学習意欲を育むためICTの活用や授業改善に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学年×10分間の家庭学習について、家庭学習の内容・量について共通理解を図る。
- ・発達段階にあった自主学習の仕方やノートモデルなどを紹介し、児童の家庭学習への意欲を高めていく。